



中心とされているので、時期的にも近く注目される。

9 関係文献

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成一三年度』(二〇〇二年)

(田中一穂)

新潟・船戸桜田遺跡

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町船戸
- 2 調査期間 第五次調査 二〇〇一年(平13) 四月～五月
- 3 発掘機関 中条町教育委員会
- 4 調査担当者 吉村光彦
- 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

船戸桜田遺跡は、塩津潟に流れ込む船戸川流域に立地する集落跡である。今回の調査は幅3mの調査区であったが、木簡が出土した



(中条)

第二次・四次調査地点(本誌第三一・三三号)の上流にあたる川跡を確認した。川跡からは、少量の須恵器・土師器と、多数の木製品が出土した。木製品は、一点の漆器盤、一五点の盤、櫛や曲物、火鑽棒などがある。木簡も川跡から出土し

た。時期的には、八世紀後半から一〇世紀初頭まで続くが、木簡は九世紀中頃のものと考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔御カ〕符 〔黒緒直〕

206×(72)×8 081

上下端は原形をとどめ、裏面は未調整である。上端は調整されているが、下端はキリ・オリのままである。内容は、〔御カ〕(官衙内の機構か)より、「〔黒緒〕(個人名)宛にだされた符の文書木簡である。内容は、下端右側に記された「直」字から、宿直を命令した木簡の可能性がある。なお、木簡の釈読及び内容については、新潟市歴史文化課(当時)の相沢央氏の「」教示によった。

9 関係文献

中条町教育委員会『船戸桜田遺跡四・五次 船戸川崎遺跡六次』

(二〇〇一年)

(水澤幸一)

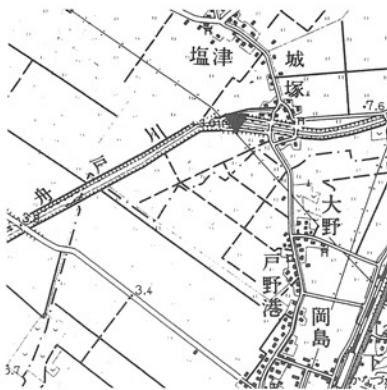


新潟・船戸川崎遺跡

ふなとかわさき

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町大字城塚^{じょうづか}
- 2 調査期間 第六次調査 二〇〇一年(平13) 四月～五月
- 3 発掘機関 中条町教育委員会
- 4 調査担当者 吉村光彦
- 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀初
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

船戸川崎遺跡は、塩津潟に流れ込む河口近くの遺跡である。これまでに、二次・四次調査で木簡が出土している(本誌第二号)。今



(中条)

回の調査区は、封緘木簡が出土した二次調査区の東側に隣接し、その木簡が出土した川跡の上流を検出した。水路幅3m分の調査のため、川跡以外は確認できなかったが、堰が認められた。遺物は須恵器・土師器・木製品などが多量に出土し、墨